

# コケモモ

*Vaccinium vitis-idaea* L.  
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

既知の生育地点は3箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が高山に限られており、県域準絶滅危惧とした。

## 分 布

北海道～九州に分布。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

## 種の特徴

高山の草地や低木林縁に生える常緑の小低木。茎の下部は地をはい、上部は斜上して高さ5～15cm。葉は革質で長楕円形、先は円く縁に細かな少数の鋸歯がある。6～7月、枝先に総状花序をつくり、3～8個の花をつける。果実は球形で赤熟する。

## 生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会編（1999）、福井県樹木誌（2011）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

# リンドウ

*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.  
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

草地や山地に生える多年生草本で、野生状態のものが近年極めて少なくなっている。

## 分 布

本州、四国、九州の湿った野山に分布する。県内には広く分布する。

## 種の特徴

山野に生える多年生草本。高さが30～60cm、根茎は淡黄色で少し肥大して長く伸び、多数のひげ状の根をつける。ひとつの株から花茎が1本から数本真っ直ぐのびる。葉は対生で、形は披針形で先は尖っている。花は、秋に茎頂部に濃紫色の鐘状花を数個つける。

## 生育を脅かす要因

草地開発、道路工事や埋め立て等により生育地が減少。また自然遷移が進行し生育環境が変化している。また、園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○		○	○		○			○	○		○	○	○

# タテヤマリンドウ

*Gentiana thunbergii* (G.Don) Griseb. var. *minor* Maxim.  
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

本県を分布限界とし、生育地、個体数とも限定される。

## 分 布

北海道、本州（中部地方以北の日本海側）に分布する。県内では南越前町、池田町、勝山市、大野市で確認されている。

## 種の特徴

高山や亜高山の湿り気のある場所に自生する。高さは10cmくらいになる。茎につく葉は対生し、披針形で茎に寄り添う。花期にも根元に卵形の根生葉が残る。花期は6～8月で、漏斗状の淡青紫色の花を、茎の上部に1個、上向きにつける。

## 生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、脆弱な地に生育するため生育地、周辺に環境圧を加えると生育を脅かすことになる。自然遷移、温暖化の進行も生育を脅かす要因となる。また園芸採取の対象になりやすいのも減少する要因である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	